

羽村市事業仕分け 議事録

実施日	平成 22 年 12 月 11 日（土曜日）
会 場	市役所 4 階会議室（第 2 会場）
事業名	2 - 6 資源回収事業助成金交付事業
出席者 （敬称略）	【コーディネーター】進邦徹夫 【仕分け人】双木達雄、塩田篤、伊藤保久、石川美紀
担当課	生活環境課
質疑応答	<p>（仕分け人）交付団体数は 46 団体とあるが、市内には交付団体となり得る団体はいくつあるのか。</p> <p>（説明者）把握していない。</p> <p>（仕分け人）46 団体以外の団体は、この事業を知っているが行っていないのか、知らないために行っていないのか。</p> <p>（説明者）広報活動については、広報紙などを活用するとともに、町内会・自治会などを通じて周知を行っている。この事業は平成元年から 20 年以上実施しており、これまで多くの市民に携わっていただいていることから、周知はされているものとする。</p> <p>（仕分け人）対象となり得る団体が多く存在するのに、一部の団体のみを対象とした事業というわけではないのか。</p> <p>（説明者）町内会を例に挙げると、全町内会に毎年通知をしているが、取り組んでいる町内会は 28 団体であり、全町内会がこの事業に取り組んでいるわけではない。各団体の事情により取り組んでいないところもあると考えられる。</p> <p>（仕分け人）1kg あたり 10 円を限度として助成しているようだが、10 円未満の金額を助成したことはあるのか。</p> <p>（説明者）この事業は要綱に定められており、1kg あたり 10 円を限度と規定されている。実際には、一律 10 円を助成している。</p> <p>（仕分け人）町内会はいくつあるのか。今後も実施団体の拡大に努めるとあるが数値目標についてどう考えているのか。</p> <p>（説明者）数値目標は特に設定していない。町内会の数は 39 あり、そのうちの 28 町内会が取り組んでいる。実施団体が拡大されれば、その分の経費は増加するが、この事業の目的であるごみの減量や住民意識の高揚などといった効果が得られるため推進していく考えである。</p> <p>（仕分け人）市としては、今後もある程度費用がかかっても、この事業を推進していくという考えでよいのか。</p> <p>（説明者）担当課としては推進していくという認識であるが、財政的な問題もあるため総合的な判断が必要となる。</p> <p>（仕分け人）財政的な問題はあると思うが、まだ実施していない町内会に</p>

呼びかけるなど、皆さんが参加することで行政と地域が一体となって取り組んでいけるようお願いしたい。

(説明者) これまではどちらかという受身の態勢であったので、今後は実施団体の拡大に向けた取り組みを行っていききたい。

(仕分け人) 町内会についての説明があったが、実施団体については、町内会名ではなく、子ども会などの名称で実施している団体もあると思うので、内容の把握をしたうえで周知していただきたい。また、市としては、各団体が助成金をどのように使っているかを把握しなくてよいのか。もう一つ、市が委託している資源回収業者との間で、この事業に関する問題は生じていないのか。

(説明者) 実施団体については、先ほど 28 町内会と回答したが、地域によっては P T A などが取り組んでいるところもあるので調査したい。助成金の使途については特に把握していない。団体の中で必要に応じて使っただけであれば良いと考える。委託事業者との間での問題については、資源回収については週 2 回実施しており、決められた日に回収しているところであり、問題というのは特にない。

(仕分け人) この事業により集められる資源ごみの量を、仮に市が収集したとすると費用はどのくらいになるのか。

(説明者) 全ての資源ごみを市が収集しても現状の収集回数が変わらないので、収集費用は変わらない。市で収集して売払ったとすると、価格相場にかなりの変動があり、一概にはお答えできないが、平成 21 年度の平均価格で単純に計算すると 12,000 千円ぐらいの収入があったこととなる。

(仕分け人) この事業の実施により、ごみに関する市民意識は高揚したと考えるか。

(説明者) 数値で捉えることができないため、判断が難しいところではあるが、現場で市民が直接関わることで、分別やリサイクルといったごみの減量に対する意識は浸透してきていることにより、可燃ごみが減少し、西多摩衛生組合の負担金の減額や、最終処分場のごみ埋め立て等に係る負担金の減額も考えられる。

(仕分け人) 助成金の使途については、懇親会に使うのではなく、できるだけ有効に使っていただくようお願いしたい。

(仕分け人) 平成 22 年度の事業費の増加については、実施団体が増えるということか。

(説明者) 平成 22 年度については、これまでの実績から積算した予算額であり、最終的な金額はわからない。

(仕分け人) 1Kg あたり 10 円という助成金額の見直しは考えていないのか。

(説明者) 当面は 10 円で実施していく考えである。

(仕分け人) 資源ごみの相場は下がっているという説明があったが、実施している団体のためにも、できれば 10 円という金額は維持していただきたい

	<p>い。</p> <p>(仕分け人) ごみ全体の排出量が減少しているとのことだが、どの程度減少しているのか。</p> <p>(説明者) 市では、平成 14 年度に戸別収集による有料化を開始したことから、一般廃棄物処理基本計画において、平成 15 年度のごみ量を目標値として定めている。この目標値と比較すると人口の増加に伴いごみの量も増加しているが、燃やせるごみの一人あたりの排出量は、平成 15 年度は 159 Kg であったが、平成 18 年度は 160kg、平成 19 年度は 164kg、平成 20 年度は 163kg、平成 21 年度は 158kg となっており、ここ数年では減少している。</p> <p>(仕分け人) 回収対象とすることのごみの種類を増やす考えはあるのか。</p> <p>(説明者) これまでには、値崩れにより業者が引き取らないという理由から平成 13 年度に古繊維の回収を廃止した経緯もあるが、今後も状況を把握のうえ種類を増やしていきたいと考える。</p>
<p>判 定</p>	<p>市が実施 より一層の充実を図りつつ、市が実施すべきである。</p> <p>【市が実施（改善が必要）2 人、市が実施（現状維持又は充実）5 人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政的見地から助成単価を下げる見直しが必要である。 ・助成金の使途については、市が指導する必要があるのではないかと考える。 ・市民のごみに対する意識が向上されるよう取り組んでいただきたい。 ・助成金の使途について深く詮索するのはどうかという考えもあるが、税金から支出していることから把握した方がいいと考える。